

# 石油資源開発株式会社

## 相馬LNG基地

新潟・仙台ガスパイプラインを中心とした当社インフラを活用し、震災復興需要が見込まれる仙台広域圏へのガス安定供給を目的に、2013年11月に福島県相馬港にLNG基地を建設することならびに接続パイプライン敷設の最終投資決定を行い、2015年1月より現地工事を開始し、2017年11月末の機械的完成を目指し工事を実行中です。

適用法規はガス事業法。基地主要設備は、外航船棧橋1基、内航船棧橋1基、LNGタンク(23万kL)1基、気化器7MPa・75t/hr



工事中の相馬LNG基地



基地全体鳥瞰図

x 2基、熱量調整設備、ローリー出荷設備5レーンで、パイプラインは20インチ・7MPa x 40kmです。

LNG地上式PCタンク容量23万kLは国内最大です。内槽板材にはニッケル含有率が低い7% Ni鋼(通常9%)を採用しコスト削減を、また請負者である株式会社IHIのJCM工法を適用し、工期短縮を図っています。

LNG外航船入船のためには港内泊地の浚渫が必須であり、国土交通省・福島県のご尽力により大幅な工期短縮で2016年3月に浚渫が完了しました。現在棧橋設置の海洋工事を実施中ですが、そのジャケットは北九州で製作され、相馬港まで曳航され順次設置されます。

プラントでは初期投資削減のため海水取水を必要としないSMV(Submerged combustion vaporizer)を採用しましたが、ガス需要増に合わせて将来別タイプの気化器を増設する予定です。

東日本大震災後の復興シンボルとして本プロジェクトは地元でも認識していただいております。福島県相馬港湾建設事務所は相馬港内外で各種工事を実施している会社を召集しLNG関連工事調整会議(隔月)を開催し、円滑なプロジェクト運営にご協力いただいております。